

研修医通信 Vol.96 令和元年9月号

東京大学医学部附属病院 伊藤 伶奈

あつという間の1ヶ月間でした。先輩のおすすめで紀南病院を選びましたが、三重県にきたのはほぼ初めてで、名古屋から1時間程度かなと思っていました。三重県は縦に長く、東京から6時間かかることにまず驚きました。土地勘も車もなく最初はとても不安でしたが、周りの方たちの優しさに助けられ、とても楽しい1ヶ月間を過ごす事が出来ました。

地域研修として1ヶ月間はとても短い期間でしたが、大学病院では学べない総合内科的なアプローチや、普段教科書を読むだけではイメージしづらい抗菌薬・糖尿病薬の選択など内科的な管理を学ぶ事が出来ました。また、超高齢化社会を目の前にして、患者さんや患者さんのご家族はどのように終末期について考えていて、どのような栄養管理の方法が最適なのか等、指導医の野田先生を初めとして、普段考えないことについても沢山教えて頂きました。人生初めての離島研修や診療所研修も新しい学びが多く、とても充実した1ヶ月を送る事が出来ました。

来年からは産婦人科になりますが、みかんが良く育つ、美しい自然に囲まれた紀南病院での日々を忘れずに日々精進していきたいと思っております。1ヶ月間有難うございました。

市立四日市病院 勝谷 亮太郎

紀南病院のみなさま、こんにちは。令和元年度9月期にお世話になりました、研修医の勝谷(かつや)亮太郎と申します。普段は四日市に住んでいるのですが、研修中は、(医師宿舎が工事中だったこともあり)紀南病院の看護師宿舎に住んでいました。主に内科病棟と救急でお仕事をさせていただきまして。

研修の最終週、海を望みながらこの文章を書いています。

さて、一ヶ月を通じて、紀南病院のみなさまには感謝の気持ちでいっぱいです。指導医池田先生をはじめとする内科の先生方には、ご指導などたくさん頂き、成長する機会をいただいたことを感謝申し上げます。カンファレンスのあとに近くの温泉「湯浴みぼっこ」に連れて行っていただいたのは最高の思い出です。

離島研修でお世話になった神島診療所小泉先生、桃取診療所小野先生、そして三重県地域医療研修センターの鈴木先生には、ふだん病院では学べない大切なことを教えていただきました。ありがとうございます。

病棟のナースのみなさまは、たくさん声をかけてくださいました。患者さんの様子をとてもよく伝えていただきましたし、ナースステーションが楽しい雰囲気だったので、病棟にいるのをほとんど苦痛に感じませんでした。これはひとえに師長をはじめとするナースのみなさまのおかげです。

救急外来のナースの皆様にも随所で助けられ、おかげで安全な医療をすることができたと思います。

放射線部、検査部、薬剤部の皆様にも、救急や病棟から電話をかけまくったり無茶なオーダーをすることがあったかもしれません。しかし全て快く受け入れてくださり本当に助かりました。

リハビリ科スタッフのみなさま、総務課の方々、食堂のみなさま、看護助手のみなさま、(病院と寮の)清掃担当者みなさま、その他のすべての関係者の方々に、一ヶ月間大変お世話になりました。重ねてお礼を申し上げます。

「人は必ず必要なときに必要なことや必要な人に出会う」という言葉の通り、紀南病院での研修や、そこでのみなさまとの出会いは僕にとって必要不可欠のものでした。

台風が過ぎ去ったあとの、真平らな夕方の青い海に、橙の夕陽が差し込むのを眺めつつ筆を置きます。本当にありがとうございました。

令和元年9月吉日 紀南病院地域研修医 勝谷亮太郎 拝



◀ 温泉「湯浴みぼっこ」にて内科の先生方と。最前列向かって左から 研修医勝谷、森本、伊藤、植地

医者としての原点に向き合うことで

名張市立病院 森本 隆之

はじめまして名張市立病院研修医2年目の森本隆之です。

僕はもともと大阪出身で、大学も含めて27年間大阪に住んでいました。自分自身の医者へのイメージというと、白い巨塔のような教授をトップとした組織で働かされるというイメージがありましたが(笑)実際働いてみるとそういうイメージ通りのところもある反面、市中病院では個人の技量でできるところはしていき、困ったところをみんなで相談しながら方針を決めていくというところも経験できました。しかしながら、漫画のDr.コトー診療所のような、離島での診療所はもう過去のものであり、いまや存在するのはほとんどないものと思っていました。

今回地域研修の一環として、神島診療所、桃取診療所、紀和診療所の3つの診療所で研修をさせていただき、診察はもちろんのこと、診察を通じて、島の人々や、そこを流れる空気感というのが、普段病院の中でせわしく過ごしてきた自分にとって新鮮なものであると同時に、なにか大切なもの、病気を診るのではなく、人を診ることが重要であることを、肌で感じる事ができました。地元ではない自分をまるで地元民のように暖かく迎えてくださった住民の皆さんには感謝でいっぱいです。

今回たまたま研修の一環で集まった同期とも、親交を深めることもでき、進路はそれぞれ違いますが、同じ医者として、切磋琢磨できる関係をこれからも築いていければと思います。またどこかで医者としてやっていくことに不安を感じることもあるかと思います。そのときはここを医者の原点として立ち寄ろうと思います。その際はまた暖かく迎えてください。

三重大学医学部附属病院 植地 南月

まず初めに、指導医の先生を含め内科の先生方、看護師の方々、その他病院スタッフの方に大変お世話になりました。私は7月から紀南病院で内科を研修し、今月は地域医療として研修させていただきました。新しく来た紀南病院で始めは慣れるのに毎日必死でしたが、多くの方々のおかげで今月まで充実した研修をさせていただきました。

紀南は私の地元ではありましたが、学生時代に紀南病院へ見学や実習をさせてもらう機会がなく、紀南地域の観光などもあまりする機会はなかったため、紀南病院や紀南地域について詳しくはありませんでした(詳しくないのに気付いたのも、こちらに来て他の研修医に紀南について聞かれてからでした...)。今回内科で3か月研修させていただき、入院から退院後まで一人一人の患者さんを長い間診させていただきました。その中で、患者さんを生活背景から、最終的なゴールを考える機会が多くあり、高齢化や家族などの社会的問題や、医療資源、交通手段が限られている中で、どの治療や処置などの方針が最適かを第一に考えながら行動していくようになりました。

地元だからこそ余計に、紀南地域の良い点や悪い点などの自分の知らなかった新しい気づきが一つ一つ大きく感じ、地域医療について理解を深めることができたのかなと思います。今後の研修においても今回学ばせてもらったことを生かし、広い視野で患者さんを診ていきたいと思っています。ありがとうございました。